

武士の暮らしと鎌倉文化

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

鎌倉時代の人々はどのように暮らし、どんな文化や仏教が生まれたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 武士の暮らしと農業の発展

武士とくらし

ぶんかつそうぞく
分割相続

武士の一族が領地を分けて相続するしくみ。女性も相続した。

武士は、ふだんは領地の館に住んで一族や従者と暮らし、弓馬の武芸にはげんで戦いに備えていた。領地は、女性もふくめて一族で分けて受け継ぐ**分割相続**が行われた。地頭になった武士は、荘園や公領の支配をしだいに強めていった。

にもうさく
二毛作

同じ田畑で米と麦などを交代でつくる農法。

このころ、西日本を中心に、同じ田畑で米と麦などを交代でつくる**二毛作**が広まり、牛や馬を使った耕作や鉄製の農具も使われて、農業の生産力が高まった。寺社の門前などでは、月に数回開かれる**定期市**が立ち、人々は宋から輸入された銅銭(**宋銭**)を使って品物を売り買いした。

ていきいち
定期市

寺社の門前や交通の便利な所で月に数回開かれた市。

そうせん
宋銭

宋から輸入された銅銭。定期市などの売り買いに使われた。

2 鎌倉文化と新しい仏教

文化と仏教

うんげい かいけい
運慶・快慶

東大寺南大門の金剛力士像をつくった仏師。

武士の気風に合った力強い文化が生まれた。東大寺南大門には、運慶・快慶らがつくった**金剛力士像**が置かれた。源平の戦いをえがいた軍記物語の**平家物語**は、琵琶法師によって各地に語り広められた。随筆では鴨長明の**方丈記**、兼好法師の**徒然草**が書かれた。

へいけものがたり
平家物語

源平の戦いをえがいた軍記物語。琵琶法師が語り広めた。

武士や民衆の間には、わかりやすく信仰しやすい新しい仏教が広まった(下の表)。念仏や題目を唱えたり、座禅を組んだりする教で、宋から伝わった禅宗は、武士の気風に合って幕府にも重んじられた。

つれづれぐさ
徒然草

兼好法師が書いた随筆。

教え	宗派(開いた人)
念仏を唱える	じょうどしゅう ほうねん じょうどしんしゅう しんらん じしゅう いっぺん 浄土宗(法然)・浄土真宗(親鸞)・時宗(一遍) 踊念仏
題目を唱える	にちれんしゅう にちれん 日蓮宗(日蓮)
座禅で悟りを開く 禅宗	りんざいしゅう えいさい そうとうしゅう どうげん 臨済宗(栄西)・曹洞宗(道元)

問いへの答え

鎌倉時代の武士は、領地の館に住んで武芸にはげみ、領地は一族で分割相続した。西日本を中心に二毛作が広まって農業の生産力が高まり、定期市では宋銭で品物が売り買いされた。文化の面では、金剛力士像や平家物語のような力強い文化が生まれ、法然の浄土宗など、信仰しやすい新しい仏教が武士や民衆に広まった。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

